峡南教育事務所・峡南地域教育情報誌　　第１５３号（２０１７年１２月・２０１８年１月号）

かけはし

発　行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ
所在地：南巨摩郡富士川町鰍沢771-2
TEL:0556-22-8154　FAX:0556-22-8144
＊HPでも御覧になれます。　http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html

異校種連携セミナー

身延町総合文会館で１１月１６日に開催された異校種連携セミナーの要旨を掲載します。

中村和彦氏

「健やかな子どもを育む」　山梨大学教育学部長　中村和彦 氏
（文部科学省中央教育審議会教育課程部会 体育 保健体育 健康安全専門部委員）

１．子どもが抱えている問題と原因

現状の子どもたちの問題は、「学力」「コミュニケーション能力」「体力」の低下である。この問題の根本的な原因は「大人」にある。世界最先端の効率化、自動化、情報化で築いた利便性の高い生活は、子どもたちの育みを阻害してしまった。現在の日本の生活習慣には「悪い連鎖」（夜更かし→寝坊→朝食抜き→排便なし→だるい→集中できない→運動しない→ｶﾘﾁﾎﾟﾃﾄ）がある。３０年前の日本の生活には「良い連鎖」があった。それが今の大人の健やかな生活を支えている、子ども時代の「心豊かで健やかなライフスタイル」である。「外で体を使って仲間と関わって遊び、おいしくタごはんを食べ、ぐっすり睡眠。気持ちよく目覚めて朝ごはんを食べて、すっきり排泄して、日中の活動に集中」という「子供の育成に不可欠なライフスタイル」を今の子どもたちに提供したい。

２．子どもを取り巻く日本の大人がリテラシーを高めていくべき

「育ち」は①「相互補完性」を持ち、そこには②「発達段階」と③「強調すべき時期と課題」がある。④「持ち越し効果」を視野に入れた教育が必要である。:「面白い」「心地よい」「自らやる」という思いで学び、運動した子どもは、生涯を通して学び、運動する。子ども時代の身体活動習慣は、生涯の健康や体力に影響する。また、子どもたちの「学びに向かう力・人間性」「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を育むには「家庭・学校・地域」が「連携」ではなく、「連動」する必要がある。

かけはし１５３号の誌面

p1　峡南地域異校種連携セミナー
p2　特別連載特集『峡南地域の食材』（早川町こんにゃく・食改員活動）
p3 わかば支援学校ふじかわ分校まつり　身延山高校学園祭　身延山高校手話部
p4 峡南高校学園祭　増穂商業学園祭

３．　日本の子どもの心の危機！

「親を信頼し親から信頼されていますか？」という問いに Yes と応える日本人中高生は母親に対し２１％、父親に対して１０％で、米国、中国、韓国と比べて最下位、「孤独だ」と感じる子どもの比率は２９．８％、「自分は厄介者」と感じる子どもの比率は１８．１％（ﾕﾆｾﾌ２０１７）でいずれもトップで、心の危機がある。幼少期から「親との関わり」が少なくお稽古事が多いことも原因の一つだ。７０年代後半から、遊び場の消失、塾・習い事・TV・ゲームの普及があり、その 10 年後の８０年代から、心と体の危機に直面している。

４．求められる子どもの運動のあり方

運動状況は、活動的な子どもと非活動的な子ども（体育の授業以外は全く動かない男子 10%　女子２３%）の二極化、さらに、活動的な子どもも単一のスポーツしかしていないケースが多く見られる。低体力、低運動能力の子どもや、運動嫌いな子どもが、遊びにのめり込む取り組みを推進し、誰もが一生涯心地よく運動することが大切だ。運動に「引退」はない。缶蹴り、鬼ごっこを知らない、遊べない子どもたちのために、遊びの３必要条件（時間・空間・仲間）と「プレイリーダー」（遊びを支える人材）の存在が必須である。

参加者からは、「生涯の健康のために幼児期からの発達段階にあった運動が大切だとわかりました。」「目から鱗の思いで拝聴致しました。遊びの重要性に開眼する貴重な時間でした。」などの感想が寄せられました。

☆連載特集☆『峡南地域の食材」No.18

早川町「こんにゃく」と食改さん

【早川町の自然環境】早川町は県の南西部の「日本で最も人口の少ない町」です。南アルプスの山々に囲まれ、富士川の支流である早川が流れ、美しい滝や渓谷があります。開湯1300年の歴史ある「西山温泉」をはじめ、「奈良田」「草塩」など温泉が点在し、人々を魅了しています。

【早川町　こんにゃく】早川町の特産品である「こんにゃく生芋」の収穫は秋深まる１１月頃で、加工には3～４年ものの生芋が適しています。製粉せずに生芋から風味よく作る方法が伝承されています。

【早川町の食改さん】早川町の食改さんは５０年以上の歴史を持ち、現在は近藤節子会長を含めて会員は２３名です。その活動は、健康料理普及のための集落での実習（年１５回）や、生活習慣病予防のための栄養教室や身体活動学習会の開催です。また、町の「小学生の栄養教室」の補助や「健康まつり」、「総合健診」で試食提供をして、「健康づくり」に貢献しています。特色として、①「地産地消」、②「保存食（乾物や缶詰）を使ったレシピの発表会」が挙げられます。新鮮な農作物がとれない季節でも、栄養豊かな食を楽しめる知恵と工夫がレシピとして伝承され、健康長寿を実現しています。

近藤節子会長

【こんにゃく生芋から、絶品「おさしみこんにゃく」ゆず風味・しそ風味等】

12月12日（火）に早川町保健センターにて、「おさしみこんにゃく」の調理実習が行われました。推進員が自宅の畑で収穫したこんにゃく芋をつかって90分で完成しました。生芋を茹でてミキサーにかけたあと、熱湯を注ぎつつ手間をかけて練ってなめらかにのばす作業は根気のいるもので、「食材」と「食べる人」に愛情をそそいでいるのだと教えられました。

地元の産物を大切に思い、美味しく食べられるように、しかも、栄養を効果的に取れるようにと、手間を惜しまない姿に頭の下がる思いでした。こんにゃくに練り込んだ粉末は推進員が1年を通して手作りしストックしたもので、「栄養豊富な魔法の粉」のように感じました。旬の時期に収穫した食材（モロヘイヤ、シソ、ヨモギ、ゆず等）を天日干しで乾燥させ、ミルで粉砕してパック詰めしておくそうです。この粉をあらゆる食材に混ぜることで、野菜の少ない冬でもビタミンやミネラルが十分取れるのです。

【今回の「早川こんにゃく」をつかった健康メニュー】　（１）【おさしみこんにゃく】

■材料　こんにゃく芋１kg　熱湯4L　ソーダ（炭酸Na）４０ｇ ＋ 熱湯４００ｃｃ

■作り方　①こんにゃく生芋を4等分して１５分程度ゆでる。②皮をむいて２ｃｍ角切りにする。　③圧力鍋で10分程度ゆでミキサーで熱湯と混ぜジュース状に。⑤さらに熱湯を加えながら30分こねる。（なめらかになるまで）⑥4等分してそれぞれに粉（モロヘイヤ粉末、ヨモギ粉末、シソ粉末、ゆず皮のみじん切り）を混ぜる。⑤こんにゃく玉を整形して熱湯でゆでる。⑥薄切りでお好みの薬味・調味料で戴く。

（２）【こんにゃく入り白和え】■材料　豆腐１丁　早川町産クルミ２００ｇ　人参1本　こんにゃく玉１個　小松菜1束　砂糖適宜

■作り方　①クルミをすり鉢でつぶす。②豆腐を茹でて水切りし①に混ぜペースト状に。③他の具材をゆでて切り②に混ぜる。

第１８回ふじかわ分校まつり

小学部発表

中学部発表

わかば支援学校（跡部和男 校長）ふじかわ分校（穴山久樹 副校長）は１１月１１日に「第１８回ふじかわ分校まつり」を開催しました。開祭式に続いて学部発表が行われました。小学部は色鮮やかな衣装で「にんじゃりずむ」を、中学部は太宰治の「走れメロス」をもとに創作した「走れメロ子～ともだちはいいもんだ～」の発表を、それぞれ行いました。物語の展開や、大道具や振り付けなど丁寧に作り上げた舞台で、児童生徒一人ひとりの熱演が光りました。また、午後からはお祭りひろばとして、「児童生徒主催の模擬店《作業製品の販売（中学部）・趣向をこらしたゲームのお店（小学部・中学部）》」や「PTA バザー」も行われました。プログラムの跡部和男校長の言葉に、「山登りと同じで一歩一歩、分校まつりの成功に向けて歩を進めてきた過程は、達成感につながり、子どもたちを大きく成長させてくれるものと確信しています。」とあります。その言葉通り、児童生徒の表情には充実感と自信が窺えました。周囲の大人たちや先生方の愛情に包まれて、懸命に活動して練習の成果を発揮する姿は感動的で、来校者の心をうつ分校まつりとなりました。

作品展示

身延山高校学園祭

身延山高校（小林学 校長）では、「 彩 ～みんなで最高の舞台を～ 」をテーマに１０月２８日(土) に「延山祭」を開催しました。開会式・開式法要、弁論大会（手話通訳あり）、雅楽演奏、手話部発表、各学年発表の他、バザー・茶会・餅まき・軽音楽同好会発表・お笑いライブ開催、各学年等の展示などもあり充実した内容となりました。全国の高校の中でも珍しく、貴重な存在である雅楽部の演奏、手話部の発表が印象的でした。生徒会本部・委員会・部活動それぞれに所属する生徒達が役割を分担して運営する姿は頼もしく、生徒会本部による「感動のフィナーレ（合唱手話＋風船）」は華やかで素晴らしく、心に残る学園祭でした。

◎身延町　大野山保育園園児と手話コラボレーション

手話部発表の際に大野山保育園（沢村和子 園長）園児たちと手話歌のコラボレーションが行われました。音楽に合わせて歌詞を手話で表現するもので、手話部員と園児たちが、「トトロのさんぽ」と童謡「虹」を披露しました。訪れた方々は、明るくエネルギッシュな舞台に魅了され、会場は温かい拍手に包まれ、笑顔で一杯になりました。

身延山高校手話部　高校生ボランティアアワード２０１７　特別賞受賞

身延山高校手話コミュニケーション部は、「高校生ボランティアアワード２０１７」で、特別賞を受賞しました。同アワードは公益財団法人「風に立つライオン基金」が8月９・１０日の両日に開催したもので、ボランティア活動に取り組む高校生の顕彰が目的です。さいたま市のスーパーアリーナに、１０１校（１０６団体）が集結し、会場内のブースで掲示物や動画を使って活動内容を発表しました。身延山高は、同法人の理事 さだまさし氏の楽曲「風に立つライオン」を歌と手話で発表した他、聴覚障害者に関するクイズの出題、手話による読経の披露、５０音を指文字で表した軍手の展示など、工夫を凝らした発表を行いました。その活動が高く評価されて８校の「特別表彰校」のうちの１つに選ばれました。水上友里部長は、「多くの人に手話の紹介ができて良かったです。また、他校の活動を知ることができて良い経験になりました。」と語りました。

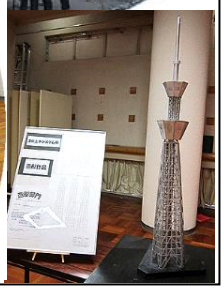
峡南高校　峡香祭（きょうこうさい）

クラス旗

峡南高校（山本英樹 校長）は１１月４日から３日間にわたって、テーマを「絶頂～夢は終わらない～」と銘打って学園祭（峡香祭）を開催しました。今年で６８回目となる学園祭、初日は開祭式に続きクラスごとのステージ発表、演劇部の舞台が行われ、保護者も大勢訪れて活気あるステージ発表となりました。２日目は模擬店・仮装コンテスト・ＰＴＡバザー等、３日目は体育祭が行われました。３日目の体育部門では、二人三脚障害物リレーや長縄飛びなど全競技で、練習の成果と団結力が発揮されました。また工業科の専門高校らしく「ものづくり」の発表の場として、科ごとに生徒製作の展示が行われました。プログラムで生徒会長のクラフト科３年生、川崎七瀬さんは、「峡香祭は、峡南高校に来て良かったと、改めて実感できるイベントです。仲間とぶつかり合い、仲間と紡いだ絆が、今、この瞬間、形になります。」と述べています。行事に取り組む中で信頼関係を築き、その信頼関係のもと、全員が気持ちを合わせて挑む３日間となりました。

似顔絵

クラス発表


製作展示

増穂商業高校　緑誠祭（りょくせいさい）

増穂商業高校（川手正昭 校長）は、１１月２日～３日の２日間にわたり、第 62 回緑誠祭を「LEVEL UP!!～最高の仲間と新たなステージへ～」のテーマのもと、開催しました。初日は開祭式に続いて、クラス発表、個人パフォーマンス等が行われました。２日目は、学園祭のメインの「増商デパート」が開店しました。これは普段の商業系科目の学習の集大成であり、仕入れから販売、会計処理まで生徒が行う実践的学習の場でもあります。当日は秋晴れで 10 時１５分の開店と同時に多くの人たちが訪れ、大盛況となりました。商品開発を手がける「いきいきショップ増商」では「ゆず味噌ドレッシング」や「ゆずマドレーヌ」、「ラ・フランスのタルト」など地元富士川町の農産物を使った商品が販売されました。大根やみかんなどの旬の農産物販売もあり、主食系のおでん、焼きそば、牛丼から、デザートの和菓子、焼きプリンタルト、ケーキ、各種飲料に至るまで、各クラスがメニューを工夫することで、全体としてバリエーション豊かな「増商デパート」を展開していました。

プログラムの川手正昭校長の言葉に、「増穂商業高校の校訓、『誠実』はまさに『増商生の魂』であり、商業を学ぶ者として、お客様に喜んで買い物をしていただけるよう『真心』を持って運営してください。」とあります。学園祭の名称「緑誠祭」にもその一文字が用いられています。この言葉通り、明るい笑顔で懸命に運営に当たる生徒の姿が印象的で、来校者が満足で幸せになる大成功の緑誠祭となりました。

増商デパート開店：秋晴れの“テープカット”